

ヒ素対応マニュアル

病院	第一報受信 患者到着 除染 救命措置 鑑別診断*	重症度判定 重症：血圧低下、ショック、不整脈、意識障害 嘔吐、下痢、腹痛は必発	治療 暴露した可能性がある場合、無症状でも初期治療を行い、6時間は経過観察 呼吸循環管理 体液電解質バランスの管理が重要 胃洗浄（早期）・活性炭の投与 腸洗浄 B A L（ジメルカプロール）の投与 溶血対策	
	患者名簿作成 検査：分析用検体（血液・尿・吐物等）採取・提出（琉球大学等へ） 心電図、血算、検尿、電解質、血液生化学検査、腹部X線検査 解毒剤準備開始			
	院内緊急連絡 （応援スタッフ）	ベッド確保 対策本部へ経過報告（随時） （ICU、経過観察用） （発生状況、症状・重症度、患者再搬送依頼、解毒剤追加等）	分析結果入手（治療法の再検討）	
中毒 派遣医	助言・相談 / 治療マニュアル各部署へ 対策本部へ状況報告（随時）	治療（必要な場合）	分析結果の検討・助言	中長期的経過観察
日本中毒 情報センター 対策本部	原因物質検討（中毒君、DB等） 推定原因物質連絡 / 治療マニュアルの配布 他機関より検知結果入手し中毒臨床医へ連絡 検知結果により治療マニュアルの追加送付	患者収容状況の確認（随時） 解毒剤再配備（必要に応じて）	分析結果入手し中毒臨床医へ連絡 分析結果により治療マニュアルの追加送付	
備考	二次汚染予防 重症患者の呼気に注意 ヒ素化合物と酸の反応で高毒性の アルシンガスが発生 患者衣類・吐物等密閉	*激しい嘔吐、下痢、血圧低下 腹部X線検査で胃内にヒ素を 確認できることがある		